受験番号

２０２３年度

神戸国際中学校　Ｂ－Ⅰ選考

国　語

（2023 年 1 月 15 日実施、50 分、100 点満点）

（注意）

1　解答用紙と問題冊子の両方に、必ず受験番号を記入してください。

2　全ての問題に解答してください。

3　解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。

4　試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

一　次の文を読んで、あとの問に答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。（設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。）

創作というと作家や作家の卵のような人たちがやっているもので、難しいことのように考えてしまう人もいるかもしれません。

（　A　）、創作も含めて、芸術とはもともと、日常生活あるいはお祭りでみなが歌ったり踊ったりしたことの中からaハッセイしてきました。詩・短歌・俳句・物語などというと、たいそう難しいもののように思ってしまいがちですが、それももともとは歌からできたものです。神様にさげる歌や落書きなどが芸術のbガンソといえるのです。自覚的でないから芸術ではないというのは、あくまで新しい時代の人々の思い込みです。

作家というプロの物書きがいて、ある一定の価値基準で作品が評価されるというのは、人類の歴史から見ればごく新しい短い時代のことにすぎません。

こうした①一面的な見方が、どれだけ多くの人々に文章を書く気をなくさせたかわからないと思います。文学に対して、（　B　）※学術に対して特別な思い入れがない人は、こういうテーマで書かなければいけないとかこういうふうに書かなければいけないとかいわれても、息苦しくなるだけです。

現在、漫画やロックなどの新しい音楽が※市民権を得ていて、文章表現よりもこれらの表現にひきつけられる若者が多いのは、自由な表現が魅力的だからということではないでしょうか。②書くこともっと自由でのびのびしていたら、多くの若者をひきつけるのではないかと思います。

なにしろ、これらの視覚文化もどれひとつとして③活字文化の助けなくしてはなりたちません。

（　C　）、漫画には台詞や解説が必要ですし、ロックにも歌詞が必要です。曲によっては歌詞は、メロディよりも重きがおかれています。映画やテレビドラマにいたっては、脚本なくしてはまったくなりたちません。また、歌詞や詩・短歌・俳句、漫画・映画・ドラマは小説・物語などこれまでの芸術作品のイメージやストーリーの展開や主人公・場面・状況設定などから学んでるところが大きいようです。

本を読むのが嫌いだという人がいます。でも、もしも自分でいろいろ書いてみて書くことの楽しさがわかってきたのなら、他の人の本を読んでも「こういうところはこういうふうに書くとおもしろいのか。」ということもよくわかってくると思います。この本はこういう本で著者はこういう人だとかcセンニュウカンをもつことなく、あくまで自分でつかむことが大切です。

本を読むことは創作することと並んで、人間にとって大切なことだと思います。現在、本は昔のように単独ではなく、テレビ・映画・漫画・音楽などと並行した文化の一つとなっており、本が他の文化よりすぐれているとはいいません。しかし、④他の文化とちがった長所をもっていることは事実でしょう。それは、手軽にさまざまな※擬似体験ができるということです。本というメディアは、小さな中に※比類がないほど多くの情報量が詰め込まれているという点と、人の内面まで描くことが可能であるという点ですぐれています。漫画や映画では膨大な量になってしまうことでも、本ですと一冊におさまってしまいます。一人の人間の経験できることには限界があり、人間はいろいろな擬似体験をすればするほど心の世界が広がっていくと思います。

読書が大切だということは、先に述べた過去の文学作品にこだわらないということと矛盾しません。さまざまなジャンルの本を読むほうが世

界が広がりますから、文学だけ読めばいいというわけではありませんし、創作するときには直接過去の文学作品を意識したり照らし合わせたりする必要はまったくありません。dホウフな読書体験は、ちょうど何年もねかせた⑤ぶどうがお酒になるように、発酵（はっこう）して別の形でさまざまなイメージを生み出すことになるでしょう。

（三浦正雄『楽しい創作入門』）

※学術…学問のこと。
※市民権を得る…一部だけに行なわれていた物事が広く一般化すること。
※擬似体験…現実に起こるであろう感覚を体験すること。
※比類…それと比べるに値するもの。

問１ ＝a～dのカタカナを漢字に直しなさい。

問２ （ A ）～（ C ）に入る言葉として適切なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア あるいは　イ それなら　ウ たとえば
エ けれども　オ だから

問３ ―①「一面的な見方」とありますが、これはどういう考え方のことですか。五十字以内で答えなさい。

問４ ―②「書くこともっと自由でのびのびしていたら」とありますが、自由ではない書き方とはどういうものですか。次の空欄に合うように文章中から四十五字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

（　　）書くこと。

問５ ―③「活字文化の助け」の例として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 漫画の中での、キャラクター同士の会話。
イ 音楽プレイヤーから流れる曲の歌詞。
ウ 映画の撮影現場での役者への指示。
エ テレビドラマを撮影するために作る脚本。

問６ ―④「他の文化とちがった長所」とありますが、これはどういうことですか。六十字以内で答えなさい。

問７ ―⑤「ぶどうがお酒になるように」とありますが、ここで用いられている表現技法として適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 隠喩　イ 体言止め　ウ 倒置　エ 直喩

問８ 本文の内容が書かれた文として適切であれば○、そうでなければ×を答えなさい。

ア 詩や短歌、俳句などはもともとは神にささげる歌や落書きから生まれたものである。
イ 現在は、文章表現よりも自由な表現が魅力的な新しい文化に惹かれる若者が多い。
ウ 本は昔から、テレビや映画・漫画・音楽などと並行した大切な文化である。
エ さまざまな文学作品を読むだけで世界が広がるので、読書は大切である。

二 次の文を読んで、あとの問に答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。（設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。）

中学三年生の亜樹は、卓球部を引退したばかりである。引退試合では、ずっと組んでいた美佳に一方的に※ダブルスを解消され、失意のまま敗退する。亜樹はその後気持ちを切り替え、姉の協力のもと受験勉強に励んでいたが、ある日自宅に美佳がやってくる。その後の場面である。

「ごめんね、いきなり……」

ようやく泣きやんだ美佳が、顔をあげた。泣きすぎで少しむくんだその顔は、亜樹を少しなつかしい気持ちにさせた。

「わたしね、※推薦（すいせん）、落ちちゃって……」

美佳はそういうとペロッと舌をだして、亜樹を見た。亜樹はかけるべき言葉を見つけられなくてだまっていた。やさしい言葉をかける気になれなかった。あの頃みたいに、だきしめてなぐさめる気になれなかった。

ふたりの間に、気まずい空気が流れる。

「ああ、わたし、なにしにきたんだろうね」

先に、①その空気に耐えられなくなったのは、美佳のほうだった。

「亜樹とのダブルス、一方的に解消して、クリちゃんとくんだくせに……うらぎり者のくせに、こんなぐちをいいにくるなんて、ひどいよね」

そういって弱々しく笑う美佳を見て、亜樹は「なんだ、わかってたのか」とおどろいた。

「わたし、亜樹が純粋に卓球がやりたくて入部してきたタイプだって、ちゃんと気づいてた。だって亜樹、男子に全然興味なさそうだったもんね」

そういうのわかってて、あんな無邪気（むじゃき）に、かんたんにダブルスを解消してきたのかと。

「でも、先輩に彼氏の友だちを紹介してもらいたかったし、県大会の大舞台で試合もしてみたくて……それでわたし、亜樹をうらぎったんだ」

だけど、それを知った亜樹に、②ふしぎと怒りはわいてこなかった。

「それなのに推薦に落ちたってわかったとき、まっさきに思いうかんだの亜樹だったんだ。負けてくやしいって素直にいえるのって、ずっと亜樹だけだったから。わたし、亜樹になぐさめてほしくてここにきたんだよ。亜樹がわたしのこと怒ってるのに……ほんと、ひどいよね」

こんなふうに素直に白状できる美佳を、うらやましいとさえ思った。いつも自分の気持ちをストレートにおもてにだせる美佳のことが好きで、ダブルスをくめることがほこらしかった「あの頃」がよみがえる。

だけど「あの頃」みたいにはげましてあげる気には、やっぱりならなかった。

「そうだね。ひどいね」

③亜樹の言葉に、美佳がおどろいた顔をした。ダブルスを解消されたときでさえ、文句ひとついわなかった亜樹が、こんなストレートなことをいうとは思っていなかったのだろう。

「でも、しかたないと思ってる」

もちろん、美佳のことをひどいヤツだとののしることもできた。そうして、被害者になりきることもできた。

「わたしの実力が足りなかったんだもの。なんだかんだいっても、美佳はまじめに練習してたし、本気で試合に勝ちたそうだったし、あのままわたしとくんでたら、美佳は絶対に県大会にはいけなかっただろうし」

だけど口をついてでてくるのは、※うらみつらみじゃなくて、本音。

「彼氏がほしいわけじゃなくて、本気で卓球してるわたしとしては、美佳の足をひっぱってることのほうが辛かった。だから、べつにいい」

それに、美佳が本気で卓球していた自分に気づいてくれていたこと。ちゃんと自分を見ていて、知っていたこと。そして、そのことを素直につたえてくれたこと。そのことのほうがうれしくて、うらんでいた気持ちが（　A　）なえてしまった。

「亜樹、なんかかわったね」
目をうるませたままの美佳がいった。
「なんか、強くなったって感じがするよ」
亜樹はだまって首をひねった。
かわったわけじゃない。強くなったわけじゃない。こんなふうにはっきりと気持ちをつたえられたのは、先に白状してくれた美佳のおかげだ。そして今はもうべつにうまくやる必要がない美佳だからこそ、いえた本音だ。
亜樹はそんな自分を、あいかわらずしょぼいなと思った。
「ああ、なんか亜樹の前で泣いたら、ビッグマック食べたくなっちゃったよ」
美佳の言葉に、亜樹は思わずブブッとふきだした。試合に負けるたびに、マクドナルドでビッグマックを食べていた「あの頃」がよみがえる。
「ねぇ、受験終わったら、ビッグマック食べにいこうよ」
（　A　）立ち直った美佳が明るい声でいう。そのゲンキンさにあきれながらも、亜樹はやっぱりうれしくなってしまう。
「なんかそれって、④縁起わるくない？」
亜樹が眉をひそめていうと、美佳は「あっ、そうか」って舌をペロッとだしている。まったく、美佳にはかなわない。そして（　A　）美佳をゆるしてしまっている自分をどうしようもないなと思った。
なのに、ふしぎとそんな自分がイヤではなかった。うらみつづけるより、ゆるしてしまえるほうが、未来は明るい。
そうしてふたりは「ビッグマックをいっしょに食べにいく」約束をして別れた。
亜樹は、合格のあとの楽しみができて、うれしかった。こんなふうに美佳との関係が復活できるなんて、予想もしなかったことが起こるもんだなと、その事実に驚くばかりだった。
奇跡みたいだと思った。
奇跡って起こるもんなんだな、と。
だけど、いい気分で家にもどった亜樹をむかえたのは、⑤きびしい現実。
「十分でもどってきてって、いったはずだけど」
お姉ちゃんが、不機嫌な顔で亜樹をにらむ。にぎりしめていた時計は、三十分も経過していた。亜樹は（　B　）していた気持ちをごくりと飲みこんで、顔をひきしめた。だまってお姉ちゃんのむかいにすわると「三十分の無駄だったねぇ」としつこくいさがるから、亜樹はきっぱりといった。
「無駄じゃないよ。このたった三十分で、⑥あきらめるのは早いってよくわかったから」
亜樹はお姉ちゃんをまっすぐに見てつづけた。
「だいじょうぶ。奇跡は起きるよ」
亜樹の言葉に、お姉ちゃんがにやりと笑う。
「じゃあ、その奇跡とやらを見せていただきましょうかね」
そして、亜樹の前に問題集がさしだされた。
「はい、始め！」
⑦亜樹は大きくうなずくと、すぐシャープペンをにぎりしめた。
笑って、ビッグマックを食べるために。

（　草野たき　『リボン』　）

※ダブルス…テニス・卓球などで二人ずつ組んでする試合。
※推薦…学校推薦型選抜。受験の一種類。
※うらみつらみ…つもりつもる恨み
問１　文中の（　A　）・（　B　）に入る言葉として最も適切なものを

次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

（　A　）

ア　ぴったり
イ　すっかり
ウ　うっかり
エ　てっきり

（　B　）

ア　どきどき
イ　はらはら
ウ　うきうき
エ　いらいら

問2　本文中には何度も「あの頃」という言葉が出てきますが、「あの頃」の亜樹と美佳について書かれた文章として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　泣いている美佳を、亜樹がだきしめてなぐさめていた。
イ　亜樹は、美佳とダブルスをくめることがほこらしかった。
ウ　勝利のお祝いに、二人でマクドナルドに行っていた。
エ　亜樹は気持ちをストレートに出せる美佳が好きだった。

問3　―①「その空気に耐えられなくなった」とはどういうことですか。三十字以内で答えなさい。

問4　―②「ふしぎと怒りはわいてこなかった」とありますが、その理由として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　もう話すこともないと思っていた美佳が突然家に来たことで動揺しており、美佳の言葉が頭に入ってこなかったから。
イ　先輩に友達を紹介してもらいたいなどという理由でダブルスを解消してきたことに、怒りよりもあきれてしまったから。
ウ　美佳とはずっと一緒にダブルスを組んでいたあの頃の思い出があるので、怒るにも怒れなかったから。
エ　ダブルスを解消された原因が自分の実力不足にあるということを自分の中で納得できていたから。

問5　―③「亜樹の言葉に、美佳がおどろいた顔をした」とありますが、美佳が予想していたと考えられる亜樹の返答を、考えて答えなさい。

問6　―④「縁起わるくない？」とありますが、なぜこのように言うのですか。四十五字以内で答えなさい。

問7　―⑤「厳しい現実」とありますが、これはどういう現実ですか。二十五字以内で答えなさい。

問8　―⑥「あきらめるのは早い」とありますが、なぜこのように言うのですか。六十字以内で答えなさい。

問9　―⑦「亜樹は大きくうなずくと、すぐシャープペンをにぎりしめた」とありますが、このときの亜樹の心情として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　馬鹿にしたような態度ばかりとる姉への怒り。
イ　目の前の難しい問題が解けるのかという不安。
ウ　絶対に受験に合格しようという強い決意。
エ　美佳と思いがけず仲直りできたことへの喜び。

三　次の①～⑥の四字熟語には誤字が一字ずつあります。正しく全体を書き直しなさい。

①一言一区　②空前絶語
③言語動断　④七天八倒
⑤半身半疑　⑥文武両刀

四　次の傍線部をそれぞれ正しい敬語に直しなさい。

①担任の先生が自宅に来る。
②校長先生の部屋へ行く。
③お客様が茶菓子を食べる。
④市長が祝いの言葉を言う。